

令和6年度 主要農作物の生育状況

秋まき小麦	<p>播種期(9/26)は平年より4日遅れた。根雪は平年より4日程度早かったが気温が高く推移したため、越冬前の生育量は平年を上回り、冬損の発生も少なかった。融雪は平年から2日遅れ、起生期(4/3)も平年より5日遅かったがその後の好天と晴天により幼穂形成期(4/29)で1日、出穂期(6/3)で2日早くなった。出穂まで適度に降水量もあるため、穂長はやや短いものの、穂数は多く確保された。出穂後は引き続き高温で降水量が少なく乾燥条件で生育したため、登熟日数は平年より4日短くなった。高温乾燥の影響で、赤さび病の発生が多く、初期防除が遅れたほ場では早期に枯れ上がり著しい整粒率の低下につながった。石礫の多いほ場も同様に早かれ症状を呈し、整粒が低下する事例が多かった。極端な高温乾燥により収穫始は(7/16)と過去最速の開始であり、収穫期(7/19)、収穫終(7/23・早8日)と短期間で作業が終了した。登熟期間合計の日照時間は301時間と平年より100時間以上多く、粒の充実は良好で、製品収量・品質は平年を上回る結果となった。</p>
ばれいしょ	<p>植付期は食用で平年より3日早く(4/22)、加工用は平年並みの(4/29)だった。萌芽の揃いは良好で、食用加工ともに平年並みに萌芽期となった。着蕾期(6/7・6/15)は平年並に迎えたが、6月中旬以降の連続する高温と7月中旬まで続いた乾燥の影響で開花期は食用は3日(6/20)、加工品種で5日早く(6/25)、草丈は7月1日段階で(44cm・47cm)となったのが最大で、平年に比べ20~30cm短くなった。茎葉黄変期は平年より食用で7日早く(7/29)、加工用で6日早く(8/7)となった。7月6半旬からは8月下旬に降水量が大幅に増加し、茎葉黄変から枯凋に至る途中の食用品種や種馬鈴薯で2次成長が多発し、それまでの高温乾燥の影響で整品も小玉となり低収となった。茎葉黄変期の遅い加工用は2次成長の発生をかなり回避して、上いも1個重はやや小さいものの、上いも数が多く収量は平年をやや上回る予想だが、高温で登熟した影響で、でんぷん価は低く、特に中晩性品種でその傾向が強い。</p>
豆類	<p>豆類の播種期は小豆が平年より2日遅いは種(5/21)となり、他の豆類は平年並だった。6月上旬がやや低温で経過したため、小豆菜豆の出芽は2~5日遅れたが揃いは良好だった。6月中旬以降は高温多照での生育となり、開花期は大豆で(7/10)、小豆(7/19)、金時(7/11)、手亡(7/18)と3~6日早まった。金時と大豆の草丈が平年より低かったが、有限伸育型である大豆は開花が6日早く、着莢も良好なため、その後の草丈の伸長が鈍化したためと考えられ、生育期間の短い金時は、6月下旬から連続した昨年を上回る高温と乾燥が影響したと思われる。小豆は最終の草丈葉数が平年をやや上回った。登熟期間(開花~成熟)も高温の影響を強く受け、平年に比べ成熟期は大豆で9日(9/14)、小豆で7日(9/8)、金時で6日(8/27)、手亡で10日(9/6)と大幅に早まった。莢数は大豆・小豆・手亡は平年に比べて多く、高温乾燥の影響が大きいと考えられる金時では少なくなった。収穫は金時から始まったが、莢数が少ない上に高温で成熟が早まったことで葉落ちが著しく悪く、莢先熟であり、生育後半に青莢が生じる2次成長となった。加えて7月6半旬から8月下旬まで連続した降雨の影響で色流れや腐敗が生じたため極めて低収となった。莢数が多かった手亡も同様に成熟期前後の降雨の影響で雨害粒が多く、品質が低下した。小豆は着莢数が多いことで昨年発生した莢先熟はおおむね回避され、平年より9日早く収穫終(10/13)を迎えた。大豆は平年より5日早く収穫始(10/6)を迎え、品質は平年並みで収量は平年を上回る見込み。小豆は高温登熟の影響で小粒ではあるものの、品質は平年並みで収量は平年をやや上回る見込み。</p>
てん菜	<p>移植期(4/28)は平年より1日早く、直播のは種期は(4/22)と4日程度早かった。苗の活着や直播の出芽は良好で、生育初期から高温多照に経過したため、葉数の増加が早く、根部の肥大は旺盛だった。しかしながら、石礫ほ場では7月の高温と乾燥でしおれや葉枯れが生じたものの、7月下旬からの降雨で回復がみられた。昨年甚発生となった褐斑病については、初発は昨年同様に早かったものの8月に入り、降雨日数が増加してほ場の湿度が高まる時期まで発病の拡大を回避した。発病初期からの体系防除と7月が高温乾燥であったことで蔓延を回避し、大きな糖分低下の要因にはならなかったと考えられる。根重は平年を上回る予想だが、生育後半まで高温で生育しており、根中糖分は低いことが予想される。</p>

ながいも	<p>平均気温は5月の植え付け期から収穫期まで高温で推移した。最低気温は8月まで高かったが、その後は平年並みとなった。日照は8月を除き多かった。降水量は7月下旬から8月を除き、平年を下回る時期が多かった。</p> <p>植え付け作業は平年並みに始まり、収穫作業は平年よりやや遅れて始まった。</p> <p>平年と比べ茎葉重は重く、新しいもは、いも長が長く、重量もあるが、いも径は平年並みとなった。生育期間を通して断続的な降雨が無く、陥没等の被害も無いことから、いもの形状は良好だった。</p> <p>同じ高温年であった昨年と比較し、いも径が細くなり、いも重は軽くなった。このことから、乾物重は昨年を上回るものの、平年と比較すると低かった。</p> <p>アブラムシやマメコガネの発生が多く、マメコガネでは茎葉ならびに新しいもの食害もみられた。</p>
牧草 (チモシー)	<p>萌芽期は4/10(遅2日)で、1番草生育期間は中旬降水量が少なく(平年比4割程度)、気温は高く推移した。その影響を受けつつも草丈は平年並みに伸張し、出穂始は6/7(遅2日)となった。1番草の収穫始は平年と同じ6/12(±0日)で、その後、作業は順調に進み収穫期が6/20(遅速±0日)、収穫終は6/30(早2日)となった。なお、10a当たり1番草生総重は3,190kg(平年対比116%)となった。2番草は高温の影響を受け再生の遅れや生育の鈍化が見られたものの10a当たり生草重は1,470kg(平年対比106%)と平年を上回った。2番草の収穫は平年に比べてやや遅れて始まり、収穫始8/18(遅3日)、収穫期8/25(遅1日)、収穫終9/4(遅3日)とやや平年に比べて遅れながら作業が進捗した。なお、牧草の年間合計生草重は4,660kg(平年対比113%)と平年を上回る結果となった。</p>
サイレージ用 とうもろこし	<p>播種作業は平年と同じように始まり、播種期で5/9(遅3日)、播種終は5/15(遅1日)となった。生育期間中(5月上旬～9月下旬)の積算気温が平年を上回ったことで、前年と同様に生育は早く進み、雄穂抽出期7/19と絹糸抽出期7/20は平年より早7日となった。熟期においても糊熟期8/23(早7日)、黄熟期9/3(早7日)と平年に比べ登熟が早く進んだ。収穫作業は収穫始9/1(早6日)と平年に比べ早く始まり、降雨とその後の湿潤な圃場条件等の影響も受けたが収穫期は9/19(早4日)、収穫終は10/5(早5日)となった。生総重は10a当たり5,880kg(平年対比91%)と平年を下回ったものの、登熟が早く進んでいたこともあり乾物率は本年28.2%(平年26.0%)と平年より2.2ポイント高く、TDNも73.2%(平年70.4%)と高まったことからTDN収量が1,220kg(平年対比103%)となった。</p>

作況調査概要及び10a当たり収量

作物名		生育状況						10a当たり収量		
		調査基準日	項目(単位)	数量	項目(単位)	数量	項目(単位)	数量	本年(kg)	平年(kg)
秋まき小麦 (きたほなみ)		7/15	稈長 (cm)	83.1 (76.5)	穂数 (本/㎡)	821.8 (727.0)	穂長 (cm)	9.1 (9.1)	644	644
馬鈴しょ	食用 (x-71)	8/1	茎長 (cm)	44.1 (75.0)	茎数 (本/株)	4.0 (4.0)	-	-	3,199	3,190
	加工用 (1310)			47.2 (67.7)		3.8 (3.2)		-		
大豆		9/1	茎長 (cm)	57.1 (75.2)	葉数 (枚)	9.0 (10.0)	着莢数 (個/㎡)	632.3 (592.6)	331	316
小豆		9/1	茎長 (cm)	61.0 (57.8)	葉数 (枚)	11.4 (10.9)	着莢数 (個/㎡)	400.4 (353.6)	191	250
金時		8/15	茎長 (cm)	36.6 (53.0)	葉数 (枚)	4.4 (4.4)	着莢数 (個/㎡)	119.3 (124.9)	103	155
手亡		9/1	茎長 (cm)	56.7 (59.9)	葉数 (枚)	7.9 (8.2)	着莢数 (個/㎡)	195.0 (181.6)	169	192
てん菜		10/15	根周 (cm)	43.0 (42.0)	-	-	-	-	7,515 (15.6)	7,258 (16.5)
ながいも	川西地区	11/1	いも長 (cm)	80.3	いも重 (g)	1,397	いも径 (mm)	72.1	4,288	4,057
	大正地区			83.5		1,425		62.0		
牧草		1番草 6/15 2番草 8/15	1番草 草丈 (cm)	110.2 (106.5)	2番草 草丈 (cm)	94.0 (99.7)	-	-	4,660	4,133
サイレージ用 とうもろこし		8/15	稈長 (cm)	266.5 (294.7)	葉数 (枚)	19.1 (17.5)	-	-	5,880	6,200

- 注1) 生育状況：帯広市農業施策推進委員会調べ。下段()は平年値
 注2) ながいもの平年値については、JA帯広かわにし管内の作付品種が「とちかち太郎」に切り替わってから3年が経過していないため、記載していない。
 注3) 10a当たり収量における平年値：帯広市調べ。てん菜下段()は糖分
 注4) 10a当たり収量における本年値：帯広市推計値
 注5) 10a当たり収量：秋まき小麦はきたほなみ、ゆめちからを、馬鈴薯は食用、加工用、澱粉用、種子用を含む。